

事務連絡 平成 31 年 4 月 11 日

院内がん登録実務者各位

ルール F 適用理由の記載について

日頃より、がん登録を通じたがん対策にご協力いただきありがとうございます。

さて、先般、2019 年症例よりルール F を採用する旨を周知しました。ここで言うルール F とは、ICD-O に該当する診断用語が記載されていなくとも適切な性状コードを 5 桁目に割り当ててることを指しますが、このルール F を適用した症例については、今後の運用に資するため、併せて適用理由の記録をお願い致します。

ルール F 適用の理由としては、①病理医の判断により性状コードを変更する場合、②病理学的に良性または境界悪性に該当する腫瘍が遠隔転移や播種を来したことにより悪性として性状コード (/3) を付与する場合、③その他、が挙げられます。

そこで、院内がん登録実務者の皆様におかれましては、ルール F の適用理由について、病理診断《テキスト》（標準登録様式 2016 年版項目番号 329）冒頭に、上記①～③に対応して、F 0 1、F 0 2、F 9 9 のうち、いずれか該当する選択肢をご記載ください。

<選択肢の説明>

【F 0 1】

これは、ルール F の適用理由が病理医の判断に基づくときに用いる。つまり病理医が判断した腫瘍の性状（ICD-O-3 形態コードの 5 桁目）に該当する診断名が、ICD-O-3 形態コードリストに記載されていない場合である。

【F 0 2】

これは、ルール F の適用理由が遠隔転移や播種を認めたことにより悪性と判断された場合に用いる。つまり、病理組織学的な診断は ICD-O-3 形態コードリスト上の良性 (/0) または境界悪性 (/1) に該当する腫瘍だが、遠隔転移や播種を来したことにより悪性として (/3) を付与する際に、それに該当する診断名が ICD-O-3 形態コードリストに記載されていない場合である。

【F 9 9】

これは、ルール F の適用理由として、上記 2 つの理由に該当しない場合に用いる。その際、F 9 9 に続けて、その理由を記載する。

<病理診断《テキスト》への記載方法>

- ・ルール F 適用の理由について、いずれか該当する選択肢を下記のように記載する

F 0 1 ;

F 0 2 ;

F 9 9 =〇〇〇 ; (“〇〇〇”には、理由を自由記載。最大で全角 3 0 文字)

- ※ いずれか該当するものを病理診断<<テキスト>>の冒頭に記載する
- ※ すべて全角で入力すること
- ※ F 0 1、F 0 2、F 9 9 =〇〇〇 のあとには、;(セミコロン)をつけること
- ※ これらは、ルールFを適用した症例でのみ、記載する
- ※ 国立がん研究センター院内がん登録室が提供する院内がん登録システム『Hos-CanR Next』を利用している施設においては、サービスパック ver. 1.39 以降、ルールF適用理由を記録するための入力欄『ルールF採用理由』(およびその『備考』)を別途設けましたので、病理診断テキスト入力欄への手入力は行わず、『ルールF採用理由』内の01、02、99のうち適切なものを選択し、99を選択した場合はその理由を『備考』欄に記入してください。

なお、ルールFについては、国際疾病分類 腫瘍学 (NCC 監修) 第 3.1 版 ICD-O p.49 や、今後更新する e-learning 「ICD-O-3 のルールを理解する (ICD-O コーディング法)」もご参照ください。

以上

(問い合わせ)

国立がん研究センター がん対策情報センター
がん登録センター 院内がん登録室
担当 前田 美香, 江森 佳子, 塚田 庸一郎, 東 尚弘
TEL: 03-3547-5201(内線 1625)
E-mail: ncc_hcr@ml.res.ncc.go.jp